

音響機器等を利用した音声教材の試作

小松 雅彦 / 松村 文芳

近年、技術的な発達によって、さまざまな機器が従来に比べて廉価で利用できるようになってきているが、音声教育への応用は限られている。本研究では、いくつかの技術の応用について調査検討を行ってきた。

- 調音等についての動画教材の検討。教材を作成するためにNDI Wave Speech Research Systemのデータ（2014年度採取）の分析準備を行った。また、近年公開された調音や発声の動画教材についての調査検討を行った。
- 英語音声のディクテーションについての検討。システム開発としては、ストリーミングサーバを利用したディクテーション演習システムのプロトタイプ作成準備を行った。教材の検討としては、幼児向けアニメのDVDやYouTube動画を用いて、授業内で紙ベースでディクテーションを実施し、その有効性を検討した。
- 英語のプロソディ教育についての検討。「英語リズム学習における強勢タイミング提示

のための視聴覚教材」（甲南大学北村達也研究室，2015）の試用を行った。また、既存の英語音声学教材におけるプロソディの取り扱いを比較するために、市販されている教材の調査・収集を行った。

- 英語の発音の自動評価システムの検討。多人数の学生を対象に発音を評価するため、自動評価システムの導入について検討を始めた。
 - 中国語CALLシステムの使用経験から、英語の音声教育との関連・応用についての検討。CALLシステムにおける波形表示に与える声調の役割の考察を行った。発話の焦点部分の中国語と英語との比較を行った。前置詞の振幅の大きさと形式意味論による論理式の意味表示とを関係づけ、前置詞の意味的な役割と教育上の重要性についての考察を行った。
- 実際に教材を作成するためには、膨大な時間が必要で、また多額の費用がかかるものもある。実際に授業で安定的に利用できる教材を開発することを目指して、今後、さらに研究を進めていきたい。